

「がん進展制御研究所セミナー」を開催

2024年5月9日

5月9日（木）、金沢大学がん進展制御研究所4F会議室において、4月に本研究所に着任されました免疫環境ダイナミクス研究分野 岡本一男先生による、がん進展制御研究所セミナーを開催しました。

セミナーでは、岡本先生が開拓されてきた「骨免疫学」におけるバラエティに富んだ研究成果、すなわち骨疾患や自己免疫疾患の病態の原因となる免疫細胞-間葉系細胞間相互作用の分子基盤について詳しく説明していただきました。また、予後不良に大きく影響するがん骨転移に関しても、骨転移巣のがん微小環境の解析に基づく発症機構の解明と新規治療法開発への取り組みを紹介していただきました。

セミナーには、研究所内外の教職員、大学院生等43名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



骨を築く免疫-間葉系細胞間クロストーク ～ がん、炎症、組織修復の観点から ～

Crosstalk between immune and mesenchymal cells in bone ～ Cancer, autoimmunity, and tissue repair ～

開催日: 2024年5月9日(木)

Date: May 9, 2024 (Thu.)

時間: 17:00 - 18:30

Time: 5:00 - 6:30 p.m.

場所: 金沢大学がん進展制御研究所
4階会議室

Venue: 4F Conference Room, CRI

※ The seminar will be **conducted in Japanese** with presentation slides in English, and participants can engage in **Q&A in either Japanese or English.**

骨は強固であたかも静的な組織のように捉えられがちだが、実際は骨の古い組織が分解されて新しい組織に置き換えられることで恒常性が維持されている。この再構築過程を骨リモデリングと呼び、骨芽細胞による骨形成と破骨細胞による骨吸収とのバランスによって制御される。一方で、自己免疫疾患のような慢性炎症や、がん骨転移といった病的状況は、骨リモデリングを持続的に破綻させ、不可逆的な骨障害に至らしめる。また骨髄は造血幹細胞の維持や血球系細胞の分化増殖の場となる一次リンパ組織でもあり、骨髄の間葉系細胞と免疫細胞の密なネットワークが骨髄造血環境を構築している。

本セミナーでは、自己免疫や骨疾患、骨転移の病態を築く免疫細胞-間葉系細胞間クロストークについて、私どものこれまでの研究について紹介したい。

講演

NEW Professor!
From April 1, 2024



金沢大学がん進展制御研究所
免疫環境ダイナミクス研究分野 教授
岡本 一男 先生

Prof. OKAMOTO Kazuo
Division of Immune Environment Dynamics,
KU-CRI

(連絡先) 鈴木(がん進展制御研究所・機能ゲノミクス研究分野)
内線6740